

PRESS RELEASE プレスリリース



# 駿河への旅

# 東海道の美

THE BEAUTY OF TOKAIDO: TRAVELING TO SURUGA

2023.2.11 SAT - 3.26 SUN

前期 2.11 SAT - 3.5 SUN 後期 3.7 TUE - 3.26 SUN



休館日: 毎週月曜日 / 開館時間: 10:00-19:00 [入場は閉館の30分前まで]

本展は2020年開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、本会期へ延期いたしました。

主催: 静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、静岡新聞社・静岡放送

特別協賛: 清水銀行

上、「駿府城下行列図屏風」(左隻) 江戸時代、千葉市美術館 / 中、原正「富士山図巻 四巻」寛政8(1796)年頃、個人蔵  
下、静岡県指定文化財「東海道図屏風」(右隻) 江戸時代、静岡市 いずれも部分



静岡市美術館  
SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F  
tel. 054-273-1515 (代表) www.shizubi.jp



【プレスリリースの問い合わせ】 担当: 大石、高橋 広報: 大庭、岡田

# 東海道の美 駿河への旅

慶長六（1601）年、徳川家康が東海道に宿駅を設置し、街道が整備されると、東海道図屏風や歌川広重の保永堂版東海道など「東海道」を主題にした絵画が広く普及しました。一方、東海道は詩書画を好む駿河の文化人たちと上方や江戸の絵師たちとの交友も可能にし、京都の円山応挙一門や江戸の司馬江漢をはじめとする新しい傾向の絵画は、駿河の人々に歓迎されました。本展では、描かれた東海道と街道をめぐる絵師たちの往来に注目し、東海道が育んだ駿河の美術や文化をご紹介します。

※本展は 2020 年開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により本会期に延期いたしました。

## 本展の見どころ

### ・東海道を描いた屏風がずらり！

東海道図屏風などにより旅と風景の豊かな世界を紹介します

### ・風光明媚な駿河の風景！

絵師たちの格好の画題であった駿河の風景を江戸時代の絵画でご覧いただきます

### ・東海道が育んだ江戸時代を代表する絵師たちと駿河の文化人との交友！

円山応挙、池大雅、浦上玉堂、司馬江漢…

江戸時代を代表する東西の絵師と駿河とのゆかりを紐解きます

## ■会期【全 38 日間】

2023 年 2 月 11 日（土・祝）－3 月 26 日（日）

前期：2 月 11 日（土・祝）－3 月 5 日（日）

後期：3 月 7 日（火）－3 月 26 日（日）

## ■休館日 毎週月曜日

## ■開館時間 10:00 ～ 19:00（入場は閉館の 30 分前まで）

## ■観覧料（予定）

一般 1,300（1,100）円、大高生・70 歳以上 900（700）円、中学生以下無料

\*（ ）内は前売および 20 名以上の団体料金 \*障害者手帳等をご持参の方および介助者原則 1 名は無料

\*リピーター割引：2 回目以降、美術館窓口にて本展の有料観覧券半券提示で当日券 200 円引き

## ■主催等

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者（公財）静岡市文化振興財団、静岡新聞・静岡放送

後援（予定）：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会 特別協賛：清水銀行 助成：芸術文化振興基金



市指定 土佐光成《駿府鳥瞰図》駿府博物館



## 展示構成

江戸時代以前の東海道を描いた貴重な作品！



《東海道往来図屏風》奈良県立美術館(後期)

## 第一章 描かれた東海道

慶長六（1601）年、徳川家康は江戸幕府開府に先んじて五街道の整備に着手します。江戸と京都を結ぶ東海道には五十三の宿駅が設置され、

参勤交代の大名行列や外国使節、旅人の往来等で大いに賑わいました。また、街道の繁栄とともに「東海道」を主題にした絵画が多く生み出されるようになりました。東海道図屏風もその一つで、その成立や享受層について詳細は未だ明らかではありませんが、旅の普及などで東海道への関心が高まった江戸前期より隆盛したとみられます。

## 東海道や宿場を描いた屏風がずらり！

朝鮮通信使、大名行列、鷹匠…生き生きと描かれた人々にも注目



朝鮮通信使



県指定《東海道図屏風(マッケンジー本)》静岡市



狩野派が描いた「東海道図屏風」。初期の基準作としても重要



狩野宗信《東海道五十三次図屏風》東京都江戸東京博物館【前期】



江戸初期の街道の賑わいを今に伝える近世初期風俗画の名品



《駿府城下行列図屏風》千葉市美術館





江戸時代中頃には出版物を通して多くの人々が各地の景観を詳細に知ることができるようになりました。  
江戸後期に葛飾北斎が浮世絵における風景版画を確立させると、続く歌川広重が各宿場の風景を抒情性豊かに描いた《東海道五十三次》を世に出し、東海道の絵画は一層人々に親しまれるようになります。

北斎と広重が描いた東海道



◀ 原（沼津）は東海道で最も富士山が大きく見えた地域として江戸時代に有名だった。  
画面に収まりきれない壮大な富士山に注目！

左: 葛飾北斎《東海道五十三次 十四 原》名古屋博物館  
右: 歌川広重《東海道五十三次之内 原 朝之富士》神奈川県立歴史博物館  
ともに前期

江戸時代中期以降、東海道の間にある駿河では江戸と上方双方の文化の影響を受け、  
風景の描き方においても、新たな名所の発見など画題の面においても、多様な表現が展開しました。

富士山に三保松原は  
室町からの伝統的な画題

▼伝雪舟《富士三保清見寺図》（永青文庫）の模写



杉谷行直筆 深田正韶賛《富士三保清見寺図》清見寺

現地写生をもとに描いた富士山



原在正《富士山図巻》(部分)四巻【前期】



◀ 精緻な描写に注目

朝鮮通信使と東海道



葛飾北斎《東海道五十三次 十七 由井》名古屋博物館【前期】

▶ 清見寺の景観が朝鮮の洛山寺に似ていることから  
朝鮮通信使の画員・金有聲が清見寺住職の求めに  
応じて描いたもの



梶指定 金有聲《山水花鳥図押絵屏風》のうち 洛外寺《部分 清見寺



Image: TNM Image Archives

▲ “原の白隠さん”こと松蔭寺住職・白隠  
が、原の植松家のために描いた  
「馬上才」（朝鮮通信使の曲馬）

白隠慧鶴《曲馬図》東京国立博物館

## 第二章 東海道が育んだ美術

東海道は文雅に親しむ駿河の文人たちと京や江戸の絵師たちとの交友を可能にしました。

十八世紀には、池大雅(1723-76)・与謝蕪村(1716-83)らの文人画(南画)や、円山応挙(1733-95)を始めとした円山派や四条派、司馬江漢(1747-1818)の洋風画、伊藤若冲(1716-1800)、曾我蕭白(1730-81)など、江戸、京都を中心に民間の個性的な絵師たちが次々と登場し、多彩な絵画が展開します。こうした新興の美術は、東海道を通じて詩書画を愛好した駿河の文人たちに歓迎されるとともに、絵画や俳諧などによる交流も行われました。

### 各家を彩った東西の絵師の名品を一堂に！

▼東海一の名園と謳われた<sup>たいしょうえん</sup>帶笑園(沼津)を彩る円山応挙の襖絵



円山応挙《山水図小襖》東京国立博物館

### 植松蘭溪と京都のつながり



狩野山雪《猿猴図》東京国立博物館

京都・海福院の住職・斯経<sup>しきよう</sup>が「形見」として帶笑園の主・植松蘭溪<sup>うきしん</sup>に贈った掛軸。斯経は白隠の高弟で松陰寺(沼津)に参禅する折に植松家に寄宿し、斯経が京に戻ったのちも交流は続いた。蘭溪もまた京の文化人とながりを得たほか、後に蘭溪の子・季興は円山応挙に入門し、絵の手ほどきを受けている。

▼応挙の長男・応瑞と弟子・芦雪



▼曾我蕭白晩年の山水画



左から円山応瑞《藤、朝顔に小禽》、長沢芦雪《截竹図》東京国立博物館【後期】、曾我蕭白《山水図》東京国立博物館

►<sup>いはら</sup>庵原の文化人のために描かれた岸岱の虎図



岸岱《虎図》

▼藤枝・大塚家旧蔵！浦上玉堂&司馬江漢



浦上玉堂《山水図稿》(部分) 常葉美術館



司馬江漢《長沼村富士眺望図》静岡県立美術館





1、県指定文化財《東海道図屏風(マッケンジー本)》(右隻) 静岡市



2、《駿府城下行列図屏風》(左隻) 千葉市美術館



3、杉谷行直筆 深田正韶賛《富士三保清見寺図》 清見寺



4、原在正《富士山図巻》(部分)【前期】



5、円山応挙《山水図小襖》 東京国立博物館 Image: TNM Image Archives



6、曾我蕭白《山水図》 東京国立博物館  
Image: TNM Image Archives



7、円山応瑞《藤・朝顔に小禽》



8、チラシイメージ

・画像1,2は一双(P3参照)での提供も可能です  
・その他プレスリリースで使用了画像をご希望の場合はお知らせください